

TELEVISION RECEIVER

Publication number: JP59219078

Publication date: 1984-12-10

Inventor: TSURUISHI YUUKI

Applicant: SUWA SEIKOSHA KK

Classification:

- International: H04N5/65; H04N5/65; (IPC1-7): H04N5/64; G09F9/00;
G09F9/35

- european: H04N5/65

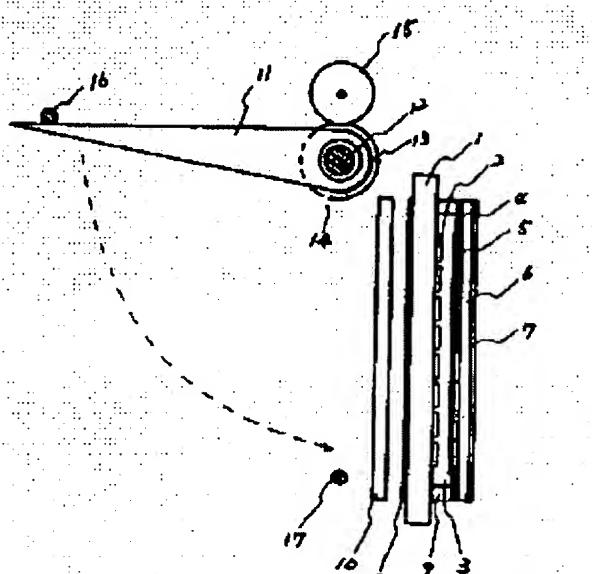
Application number: JP19830093591 19830527

Priority number(s): JP19830093591 19830527

[Report a data error here](#)

Abstract of JP59219078

PURPOSE: To select and utilize optionally natural light and light of a back light source by forming a light conducting body movably provided on the front face of a transmission type color display body by means of external operation. CONSTITUTION: The light conducting body 11 conducts the light of the back light source 12, allows the light to be irradiated from the front surface and irradiates the light distributed as uniform as possible on the entire face to a light diffusion body 10. Thus, the light conducting body 11 is formed as a wedge and a reflecting film 13 is vapor-deposited on the opposite side of the light source. Then the light conducting body 11 is formed turnably by 90 deg. by operating gears 14, 15 externally. Thus, the natural light and the light of the back light source are selected optionally and utilized by turning the light conduction body by 90 deg..



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑯ 公開特許公報 (A) 昭59-219078

⑯ Int. Cl.³ 識別記号 厅内整理番号 ⑯ 公開 昭和59年(1984)12月10日
H 04 N 5/64 7013-5C
G 09 F 9/00 6731-5C 発明の数 1
9/35 6615-5C 審査請求 未請求

(全 3 頁)

④ テレビ受像機

② 特願 昭58-93591
② 出願 昭58(1983)5月27日
② 発明者 鶴石悠紀
謹訪市大和3丁目3番5号株式

会社謹訪精工舎内
⑦ 出願人 株式会社謹訪精工舎
東京都中央区銀座4丁目3番4号
⑦ 代理人 弁理士 最上務

明細書

1. 発明の名称

テレビ受像機

2. 特許請求の範囲

(1) 上下の透明基板、各基板内面に形成された透明樹脂、これら透明電極間に封入された液晶、前記透明基板の前後に置かれた原色偏光膜、一方の透明基板上またはそれに隣接して形成されたカラーフィルター層、後方(下方)に置かれた光拡散板、バックライト光源、当該バックライト光源の光を均一に前方に導く導光体から構成されたテレビ受像系において少くとも前記導光体が外部操作で可動的に形成され、背後の自然光とバックライト光源の光とを任意に選択して利用できるようにしたことを特徴とするテレビ受像機。

3. 発明の詳細な説明

本発明は液晶表示体を利用したテレビ受像機に

係わり、その表示部分の構造に関する。

本発明の目的は、特に携帯用の小型電子機器、例えばVTRカメラや磁気カメラに組み込んで使用可能な小型テレビ受像機を提供することである。従来、こうした目的には、小型CRTがテレビ表示体として用いられている。しかし、CRTは小型と言えどもかなりの奥行を必要とし、高圧電源配線や大消費電力のデメリットから携帯機器に用いるには十分とは言えない。これに代って低消費電力型の液晶をテレビ表示に利用する提案が既に周知である。しかし、従来の液晶表示体は、カラー化が難しく、VTRカメラに組み込んで利用できる画質まで到らなかった。だが、つい最近、提案されたTFTアクティブラチクス型カラー液晶表示体は、小型低パワーで鮮明なカラー画像を表示できる。本発明はこの種の透過型カラー液晶表示体を用いて携帯機器に組み込んで好都合のテレビ受像機を提案する。

以下図面に添いて、本発明を詳細に説明する。

第1図は本発明のテレビ受像機の表示部分の構

ることになり、画面としては見にくいが心理的には面白い効果がある。

11は導光体であり、バックライト光源12の光を導いて、その前方表面から放射し、できるだけ全面に均一分布した光を光拡散板10にあてるものである。このため、導光体11はくさび形状となっており、かつ、光源の反対側には反射板13が蒸着される。14、15は簡単な歯車であり外部操作によって導光体11を90度回転させるために用いる。16、17は導光体の位置決めピンである。バックライト光源12は小型の発光灯を用いる。従って、導光体の端部の中空の筒の中に入れ発光灯の両端を固定する。これにより、発光灯自体は回転しないで済むため信頼性が向上する。導光体11がけわ上った時は後方の自然光を利用する前提であるから、この状態では光源のスイッチが入らないよう、導光体の位置によって開閉するスイッチを光源回路に介在させるのが効果的である。

組込みモニターテレビを撮影後に見る場合で、

自然光の利用が不十分なところでは、導光体を組込んでバックライト光源を点灯して見ることができる。

本発明の構造は、自動車の中に搭載されるテレビにも利用できる。例えば、表示部を車の窓ガラスの間に取付けて用いるとか、あるいは日射しよけに組込んで用いるといった場合、外光が十分明るい状態では、本発明の方法でパワーの節約が可能である。

以上に述べた如く、本発明のテレビ受像機は、特に小型の携帯電子機器の組込みモニターテレビに利用することにより、電力節約の上で大きな効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明のテレビ受像機の表示部分の構成図である。

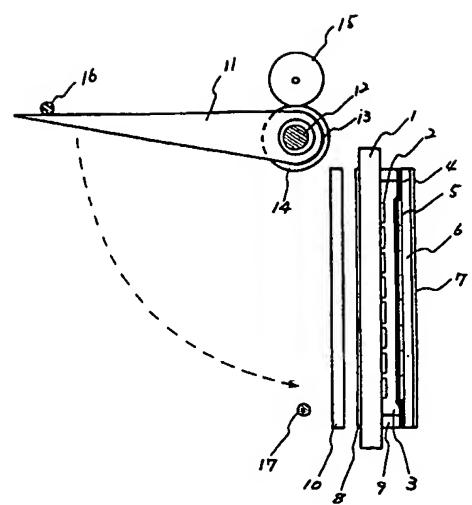
- 1、6 …… 透明基板
- 2 …… 画素電極
- 3 …… 液晶

- 4 …… 共通電極
- 5 …… カラーフィルター
- 7, 8 …… 直線偏光膜
- 9 …… 封止部
- 10 …… 光拡散板
- 11 …… 導光体
- 12 …… バックライト光源
- 14, 15 …… 歯車
- 16, 17 …… 位置決めピン

以上

出願人 株式会社 開拓精工舎

代理人 弁理士 最上 功



第 1 図